



## 平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月6日

上場取引所 東

上場会社名 古河機械金属株式会社  
 コード番号 5715 URL <http://www.furukawakk.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役上級執行役員経理部長  
 四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 宮川 尚久  
 (氏名) 岩田 穂

TEL 03-3212-7021

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	127,502	8.2	6,422	44.3	5,880	45.8	3,083	29.9
26年3月期第3四半期	117,855	△4.7	4,449	77.2	4,033	132.1	2,374	36.3

(注)包括利益 27年3月期第3四半期 4,751百万円 (△31.4%) 26年3月期第3四半期 6,926百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	7.63	7.48
26年3月期第3四半期	5.88	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	218,226	59,556	26.5
26年3月期	199,408	56,313	27.4

(参考)自己資本 27年3月期第3四半期 57,824百万円 26年3月期 54,694百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	3.00	3.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	3.00	3.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	170,500	4.6	8,500	23.4	7,000	13.8	4,500	13.2	11.14

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年3月期3Q	404,455,680 株	26年3月期	404,455,680 株
----------	---------------	--------	---------------

② 期末自己株式数

27年3月期3Q	361,445 株	26年3月期	329,062 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年3月期3Q	404,118,584 株	26年3月期3Q	404,133,256 株
----------	---------------	----------	---------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8
平成27年3月期 第3四半期決算短信 補足資料 .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成26年4月1日～同年12月31日)の我が国経済は、個人消費などに弱さが見られましたが、景気は緩やかな回復基調が続きました。しかしながら、消費者マインドの低下や海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクには注意を要する状況が続きました。

このような経済状況の下、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,275億2百万円(対前年同期比96億46百万円増)、営業利益は、64億22百万円(対前年同期比19億72百万円増)となりました。売上高は、主にロックドリル部門、ユニック部門、金属部門、不動産部門で対前年同期比増収となりました。営業利益も、主にロックドリル部門、ユニック部門、不動産部門での増収により増益となりました。

なお、当第3四半期連結会計期間から、報告セグメントのうち「開発機械」を「ロックドリル」に名称変更しています。当該変更は、セグメントの名称変更のみであり、セグメントの区分に変更はありません。

各報告セグメントの売上高と営業利益の状況は以下のとおりです。

産業機械部門では、官需向け橋梁やポンププラント、破碎機等の一般産業機械を中心に売上を伸ばすことができました。震災被災地における高台移転工事については出来高に対応した売上を計上しました。売上高は、122億86百万円(対前年同期比2億26百万円増)、営業利益は、10億41百万円(対前年同期比1億43百万円増)となりました。

ロックドリル部門では、国内向けは、公共工事の増加に伴い砕石や骨材が需要増となったことから、油圧ブレーカ、油圧クローラドリルの出荷が好調でした。また、東北復興工事向けをはじめとしたトンネル工事の本格化により、トンネルドリルジャンボも出荷を伸ばすことができました。海外向けは、中近東向けに油圧ブレーカの新シリーズ製品の出荷が好調で、北米、アフリカ向けも油圧クローラドリルの出荷を伸ばすことができました。売上高は、223億72百万円(対前年同期比33億15百万円増)、営業利益は、9億2百万円(対前年同期比8億29百万円増)となりました。

ユニック部門では、国内普通トラックの需要が旺盛なことから、登録台数は対前年同期比15%増となり、ユニッククレーンの出荷を伸ばすことができ、また、ユニックキャリアの出荷も好調でした。海外向けも従来の北米、欧州向けに加え、東南アジアへもインフラ整備用に売上を伸ばすことができました。売上高は、206億54百万円(対前年同期比24億70百万円増)、営業利益は、25億91百万円(対前年同期比4億86百万円増)となりました。

産業機械、ロックドリルおよびユニックの機械3部門合計の売上高は、553億14百万円(対前年同期比60億12百万円増)、営業利益は、45億36百万円(対前年同期比14億59百万円増)となりました。

金属部門では、伸銅需要は堅調に推移しましたが、電線需要に消費増税後の反動が出始めています。電気銅海外相場は軟化しましたが、円安を主因として増収となりました。売上高は、608億76百万円(対前年同期比21億36百万円増)、営業利益は、11億43百万円(対前年同期比54百万円減)となりました。

電子部門では、主力の高純度金属と素については、原発事故風評被害により未だ苦戦が続いていますが、車載向けが好調なコイル等は売上を伸ばすことができました。売上高は、44億41百万円(対前年同期比4億65百万円増)、営業利益は、1億1百万円(前年同期は84百万円の損失)となりました。

化成品部門の売上高は、45億15百万円(対前年同期比28百万円減)、営業利益は、1億98百万円(対前年同期比23百万円減)となりました。

不動産部門では、平成26年2月に竣工した室町古河三井ビルディング(商業施設名:コレド室町2)の賃貸収入により収益を伸ばすことができました。売上高は、17億79百万円(対前年同期比10億34百万円増)、営業利益は、5億37百万円(対前年同期比4億22百万円増)となりました。

当第3四半期連結累計期間の経常利益は、58億80百万円(対前年同期比18億46百万円増)となりました。特別利益に受取補償金8億9百万円、事業譲渡益5億29百万円ほか、特別損失に固定資産除売却損37百万円、減損損失70百万円ほかを計上した結果、四半期純利益は、30億83百万円(対前年同期比7億8百万円増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、2,182億26百万円で、前連結会計年度末に比べ188億17百万円増加しました。これは主として、たな卸資産の増によるものです。有利子負債(借入金)は、912億83百万円で前連結会計年度末に比べ140億63百万円増加しました。純資産は、595億56百万円で前連結会計年度末に比べ32億43百万円増加しました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、前回(平成26年5月8日)発表の業績予想における前提を銅価6,700米ドル/トン、為替100円/米ドルとしていましたが、直近の動向を考慮し第4四半期では銅価を5,650米ドル/トン、為替を118円/米ドルへ変更しました。金属部門では円安の影響等により増収となる見込みです。また、ロックドリル部門では公共工事等の活況な国内需要を背景とする売上増、ユニック部門では国内普通トラック登録台数の伸びによるユニッククレーン出荷増が見込まれることなどから売上高を上方修正し、それに伴い、営業利益、経常利益、当期純利益につきましても、それぞれ上方修正しています。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

## (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

## (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

## (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を、従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が460百万円増加し、利益剰余金が296百万円減少しております。なお、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,735	20,487
受取手形及び売掛金	26,697	26,833
商品及び製品	12,603	15,298
仕掛品	7,219	8,419
原材料及び貯蔵品	13,244	18,251
その他	4,541	5,081
貸倒引当金	△202	△205
流動資産合計	76,839	94,165
固定資産		
有形固定資産		
土地	55,400	55,294
その他(純額)	31,797	30,868
有形固定資産合計	87,198	86,162
無形固定資産		
のれん	47	31
その他	160	156
無形固定資産合計	208	188
投資その他の資産		
投資有価証券	30,126	32,617
その他	5,667	5,793
貸倒引当金	△631	△701
投資その他の資産合計	35,162	37,709
固定資産合計	122,569	124,060
資産合計	199,408	218,226
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	21,556	13,774
電子記録債務	—	10,694
短期借入金	30,609	35,030
未払法人税等	2,422	2,572
引当金	195	197
その他	19,193	16,437
流動負債合計	73,976	78,706
固定負債		
長期借入金	46,610	56,253
引当金	154	152
退職給付に係る負債	5,671	6,584
資産除去債務	205	208
その他	16,477	16,763
固定負債合計	69,118	79,962
負債合計	143,095	158,669

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	28,208	28,208
利益剰余金	21,917	23,548
自己株式	△48	△55
株主資本合計	50,077	51,700
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,882	7,284
繰延ヘッジ損益	15	△479
土地再評価差額金	3,503	3,448
為替換算調整勘定	△953	△813
退職給付に係る調整累計額	△3,830	△3,317
その他の包括利益累計額合計	4,617	6,123
新株予約権	53	53
少数株主持分	1,566	1,679
純資産合計	56,313	59,556
負債純資産合計	199,408	218,226

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	117,855	127,502
売上原価	101,379	108,663
売上総利益	16,476	18,839
販売費及び一般管理費	12,026	12,416
営業利益	4,449	6,422
営業外収益		
受取配当金	288	379
その他	970	746
営業外収益合計	1,258	1,126
営業外費用		
支払利息	832	704
休鉱山管理費	426	418
その他	415	545
営業外費用合計	1,674	1,668
経常利益	4,033	5,880
特別利益		
受取補償金	718	809
事業譲渡益	—	529
その他	140	103
特別利益合計	858	1,442
特別損失		
固定資産除売却損	43	37
減損損失	186	70
その他	6	0
特別損失合計	236	108
税金等調整前四半期純利益	4,655	7,214
法人税、住民税及び事業税	1,941	4,231
法人税等調整額	215	△191
法人税等合計	2,156	4,040
少数株主損益調整前四半期純利益	2,499	3,174
少数株主利益	124	90
四半期純利益	2,374	3,083



(四半期連結包括利益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,499	3,174
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,382	1,402
繰延ヘッジ損益	△67	△509
為替換算調整勘定	845	165
退職給付に係る調整額	-	513
持分法適用会社に対する持分相当額	266	4
その他の包括利益合計	4,427	1,577
四半期包括利益	6,926	4,751
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,766	4,645
少数株主に係る四半期包括利益	160	106

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					
	産業機械	ロックドリル	ユニック	金属	電子	化成品
売上高						
外部顧客への売上高	12,059	19,057	18,183	58,740	3,975	4,543
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,846	100	59	304	8	33
計	13,905	19,158	18,243	59,044	3,984	4,576
セグメント利益又は損失 (△)	897	73	2,105	1,197	△84	221

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	不動産	計				
売上高						
外部顧客への売上高	745	117,305	550	117,855	—	117,855
セグメント間の 内部売上高又は振替高	102	2,455	1,139	3,594	△3,594	—
計	847	119,760	1,689	121,450	△3,594	117,855
セグメント利益又は損失 (△)	114	4,526	△47	4,479	△29	4,449

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運輸業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△29百万円には、セグメント間取引消去29百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△59百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない「金属鉱山跡資産」及び「炭鉱跡資産」関連費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					
	産業機械	ロックドリル (注) 1	ユニック	金属	電子	化成品
売上高						
外部顧客への売上高	12,286	22,372	20,654	60,876	4,441	4,515
セグメント間の 内部売上高又は振替高	2,136	7	74	275	4	38
計	14,422	22,380	20,729	61,152	4,445	4,553
セグメント利益又は損失 (△)	1,041	902	2,591	1,143	101	198

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 4
	不動産	計				
売上高						
外部顧客への売上高	1,779	126,926	576	127,502	—	127,502
セグメント間の 内部売上高又は振替高	101	2,638	1,237	3,875	△3,875	—
計	1,880	129,564	1,814	131,378	△3,875	127,502
セグメント利益又は損失 (△)	537	6,516	△76	6,440	△17	6,422

(注) 1. 当第3四半期連結会計期間より、報告セグメントのうち「開発機械」を「ロックドリル」に名称変更しております。当該変更は、セグメントの名称変更のみであり、セグメント区分に変更はありません。また、前第3四半期連結累計期間についても変更後の名称で記載しております。

- 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運輸業等を含んでおります。
- セグメント利益又は損失(△)の調整額△17百万円には、セグメント間取引消去46百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△64百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない「金属鉱山跡資産」及び「炭鉱跡資産」関連費用であります。
- セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 前提

		今回予想	対前年同期増減
銅価	第3四半期累計決算 \$/mt	6,800	326
	年度予想 \$/mt	6,513	591
為替	第3四半期累計決算 円/\$	106.9	7.5
	年度予想 円/\$	109.7	9.5

## 平成27年3月期 第3四半期決算短信 補足資料

2015年2月6日

古河機械金属株式会社

## 〔売上高〕

(単位:百万円 単位未満切捨)

	平成26年3月期	平成27年3月期	対前年同期増減
	第3四半期累計期間	第3四半期累計期間	
機械部門	49,301	55,314	6,012
（産業機械）	(12,059)	(12,286)	(226)
（ロックドリル）	(19,057)	(22,372)	(3,315)
（ユニック）	(18,183)	(20,654)	(2,470)
金属部門	58,740	60,876	2,136
電子部門	3,975	4,441	465
化成品部門	4,543	4,515	28
不動産部門	745	1,779	1,034
その他	550	576	26
〔合計〕	117,855	127,502	9,646

平成27年3月期	
年度予想	対前年増減
74,400	3,288
(16,600)	( 1,927)
(29,900)	(3,057)
(27,900)	(2,158)
81,100	2,415
5,600	218
6,200	103
2,500	1,486
700	39
170,500	7,473

## 〔営業利益〕

	平成26年3月期	平成27年3月期	対前年同期増減
	第3四半期累計期間	第3四半期累計期間	
機械部門	3,077	4,536	1,459
（産業機械）	(897)	(1,041)	(143)
（ロックドリル）	(73)	(902)	(829)
（ユニック）	(2,105)	(2,591)	(486)
金属部門	1,197	1,143	54
電子部門	84	101	185
化成品部門	221	198	23
不動産部門	114	537	422
その他	47	76	28
（計）	4,479	6,440	1,960
調整額	29	17	12
〔合計〕	4,449	6,422	1,972

平成27年3月期	
年度予想	対前年増減
6,100	766
(1,500)	( 351)
(1,200)	(858)
(3,400)	(258)
1,600	96
100	223
280	35
600	643
110	49
8,570	1,644
70	30
8,500	1,613

当第3四半期連結会計期間より、機械部門のうち「開発機械」を「ロックドリル」に名称変更しております。当該変更は、部門の名称変更のみであり、部門区分に変更はありません。